

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号 5809 学校名 飛騨高山高等学校（定時制）

<p>学校教育目標 (教育方針)</p>	<p>【教育方針】あらゆる機会を捉えて『自走できる生徒』を育成するとともに、価値観の多様性を認めて互いを尊重でき、命を大切にできる心をもった生徒を育成する。 【教育目標】「快活」「友愛」「創造」の校訓を基に、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、社会人としての一般教養を身に付けさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。</p>	
<p>3つの方針 (スクールポリシー)</p>	<p>どんな生徒を 育てたいか 【GP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな思考力と適切な判断力を身に付け、課題解決のため周囲と協働できる生徒 互いの人格を尊重し、意見を交流しながら、自らの役割と責任感を果たせる生徒 郷土を愛し、地域の発展のために、地域や社会の構成員として貢献できる生徒
	<p>生徒をどう 育てるか 【CP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題の発見、解決能力を伸長するための「主体的・対話的で深い学び」・「探究的な学び」の推進 ICTを積極活用した教科指導・探究的な学びでの、コミュニケーション能力と情報発信力の育成 生徒の個性や長所、自己肯定感を伸長するためのカリキュラム編成と個に応じた細やかな指導の実施
	<p>どんな生徒を 待っているか 【AP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 過去にとらわれず、再挑戦する意思をもち、周囲と協働しながら主体的に学ぶ意欲をもつ生徒 自らの目標や希望を実現するために、主体的に学ぶ意欲のある生徒 生徒会活動や学校行事などに自主的、主体的に参加し、より良い学校や人間関係を築いていく意欲のある生徒
<p>学校の抱える課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定時制高校としての役割が、小学校、中学校、前籍校で不登校傾向であった生徒や様々な困り感のある生徒の支援重視へと変化している。 進学する生徒が増加してきており、生徒の多様な進路希望に対応する必要がある。 生徒の多様化が進んでおり、その実態に即したカリキュラムが求められる。 	
<p>教育指導の重点</p>	<p>領域・分野</p>	<p>今年度の具体的な重点目標</p>
	<p>学習指導</p>	<p>◇基礎基本を大切にして、社会人として必要な一般教養を身に付けさせます。 ◇主体的な学びへとつながる「分かる授業」を推進するとともに、個に応じた支援を充実させます。</p>
	<p>生徒指導</p>	<p>◇あらゆる学習活動及び特別活動を通して、生徒の主体性を育み、自己肯定感を高めるように努めます。 ◇自他の人格と生命を尊重し、健全な人間関係を築かせるとともに、社会性の育成に努めます。</p>
	<p>進路指導</p>	<p>◇望ましい勤労観・職業観を身に付けさせて、社会的自立を促します。 ◇能力・適正及び多様な可能性を理解させて、卒業後の進路実現を目指します。</p>
	<p>その他</p>	<p>◇時間外勤務の解消を目指します。</p>

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学習指導	① プリント教材やICTを活用し、生徒が「分かった」「できた」を実感できる授業づくりに努めます。	8	施策Ⅱ-8	① 生徒及び保護者を対象とするアンケート	<p>①ユニバーサルデザインに配慮した授業プリントの作成やICTの効果的な活用に努め、生徒が「分かった」「できた」を実感できる授業づくりを目指した。</p> <p>②「授業のルールとマナー」を示し、対話を大切にしなが主体的な学びを推進するとともに、授業規律の確立を図った。</p> <p>③多くの教科・科目でティームティーチング、習熟度別、少人数授業のいずれかを行い、個別の支援を充実した。</p>	○昨年から実施しているプリントの書体統一を含めて、分かりやすい授業実践に努めることができた。授業評価アンケートでは、ほとんどの質問事項において80%以上の生徒が肯定的意見を返していた。	B
	② 対話を大切にした主体的な学びを推進するとともに、授業規律の確立に努めます。	8	施策Ⅱ-8	② 生徒による授業評価アンケート			
	③ 分割授業やティームティーチングを取り入れ、特別支援教育支援員とも連携し、個別の支援を重視した授業実践に努めます。	23	施策Ⅳ-23	③ 定期考査ごとの各科目の平均点及び得点分布			
生徒指導	① 全職員による多面的な生徒理解に努め、個性を尊重するとともに、各種講話や授業を通じて規範意識の向上を促します。	1	施策Ⅰ-1	① 生徒及び保護者を対象とするアンケート	<p>①各種懇談(年5回)、学校生活アンケート(年3回)、心のアンケート(年4回)を実施し、生徒の実態把握に努めた。また、外部講師による講話として「情報モラル」「SOSの出し方講座」、「薬物乱用防止講話」を実施した。</p> <p>②学校行事で生徒が関わる機会の増加、部活動・同好会活動の活性化を図った。部活動加入者数は前年度より新入生を中心に増加している。また、新たな同好会設立を希望する生徒も出てきている。</p> <p>③いじめの早期発見・解決に努め、いじめに関するアンケート、心のアンケート、学校生活アンケートを活用した。また、スクールカウンセラーやソーシャルワーカー等外部機関と連携し生徒の不安や悩みに対応し、いじめ認知件数が前年度の3件から1件に減少した。</p>	○生徒を対象としたアンケートでは、「本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせよう」と努めている。」の肯定的評価が96.8%となり、昨年度の97.3%から微減した。方で、否定的評価は2.0%から0%になりおおむね満足できる結果であったと考える。	B
	② 学校行事・部活動・生徒会活動の活性化を図り、生徒が主体的に活動できる場の提供に努めます。	5	施策Ⅰ-5	② 学校行事・生徒会活動の振り返り・部活動加入者数及び活動状況・大会成績			
	③ すべての教師があらゆる機会から生徒一人一人を理解し、生徒の日常の僅かな変化を捉え、積極的な教育相談に努めるとともに、いじめの早期発見・早期対応につなげます。	3	施策Ⅰ-3	③ いじめ実態調査等による状況観察			
進路指導	① 発達段階に応じて外部講師や地域人材を活用した進路ガイダンスを実施するとともに、関係機関と連携して在学中の就労を支援します。	13	施策Ⅱ-13	① 生徒及び保護者を対象とするアンケート・各種講話の振り返り	<p>①進路説明会、進路講話(年2回、外部講師)、年金セミナー(外部講師)、ハローワーク見学会(外部講師)、身だしなみセミナー(外部講師)を実施し、所期の目標を概ね達成できた。</p> <p>②インターンシップ(選択制・2日間)、企業見学会(3学年全員・計6事業所)を実施し、所期の目標を概ね達成できた。</p> <p>③進路希望調査(年2回)、求人票一覧(冊子)配付、指定校推薦一覧の教室掲示、職業レディネステスト(2年生)を実施し、三者懇談や個別面談等を通じて情報提供を行い、所期の目標を概ね達成できた。</p>	○各事業で講師の選定・依頼に尽力した甲斐があり好評だった。今後も、卒業生や卒業生が勤める企業の経営者など、地域人材に関する情報収集に努めたい。	B
	② 育友会や教育振興会と連携を図り、職場訪問・インターンシップ等を通じて就労の意義を理解させ、社会的自立を促します。	20	施策Ⅳ-20	② 進路希望調査、就労調査			
	③ 三者懇談や個別面談等を通じて自己の能力・適性や可能性を確認するとともに、適時に進路情報を提供します。	13	施策Ⅱ-13	③ 進路先決定状況			
その他	① 勤務時間管理を徹底し、教員間の業務量の平準化を行います。	27	施策Ⅳ-27	① 勤務時間管理簿の確認	<p>勤次郎による時間外在校時間はほぼ適正であり、緊急事態をのぞいては全職員の退勤も勤務時間終了後すみやかに終わっており、おおむね良好であったと思われる。</p>	夜間勤務のため、職員の体調管理には今以上に気を配りたい。	B

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年1月6日

学校関係者評価

実施日：令和7年1月24日

<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果分析と、それに伴う授業改善をさらに充実させていきたい。昨年度から、授業評価アンケートの個人分析シートを導入しているが、このシートを活用し、アンケート結果を具体的にどうやって授業に反映させていくかを、教員全体で検討していきたいと考える。 ・部活動や同好会活動の顧問の兼部を認めるよう内規を改定し、より生徒が活躍できる場面を作り出すようにする。また、生徒自身があらゆる機会をとらえて自身の行動を振り返りどのような行動をするべきか考える機会を充実させる。 ・多様な課題を抱える生徒に対応した教育相談が行えるよう、すべての教師が生徒一人一人を理解し、あらゆる機会を通じて日常の僅かな変化を捉えて積極的な教育相談を行うとともに外部機関と積極的に連携を図り、専門的知識に基づいた支援を行ってきたい。 ・就業支援を目的として4年前に開設した学校設定科目「ジョブコミュニケーション1・2」について、在学中のアルバイト等の就業率が8割近くと高い水準に達していること、選択・履修者の著しい減少や、「1」の選択・履修後に「2」を選択・履修する生徒が少ないことなど、すでに所期の目的を達成したと考えられる様子が見られる。科目内容の改変とそれが有効か否か、併せて再来年度以降の科目開設継続の是非について継続検討したい。
--

<ul style="list-style-type: none"> ・自分の子供もそうであったが、定時制では先生方の言葉が温かく、生徒の背中を押してもらえ4年間であった。心に問題を抱える生徒が多いと思うが、生徒に寄り添ったサポートをしていただきたい。 ・飛騨地区の定時制はここにしかない。心のケアをお願いします。 ・職業体験などの夜学で学が生徒たちへのサポートが必要だと思う。 ・学校設定科目の「ジョブコミュニケーション」などに協力できることがあればしていきたい。 ・年々、志願者が増えているので、定時制の先生方には頑張ってもらいたい。 ・自分の子供が、中庭ライブで全日制の生徒(友達)とコミュニケーションが取れるようになったと聞いた。今後このような機会を作って欲しい。 ・職員が少ない中で、多様な支援に対応していくことは大変であるが、先生方の体調管理に気を付けながら、今後も続けて欲しい。
